

第64号 「奇跡」

2019年9月、アジア初開催となるラグビーワールドカップが日本で開幕しました。前回大会で南アフリカから勝利し、「史上最大の番狂わせ。まさに奇跡が起きた。」と言われてからわずか4年、日本チームは確実に強くなっていました。予選プールで優勝候補のアイランドから劇的勝利をあげたとき、アナウンサーが「もう奇跡とは言わせない！」と絶叫していたのが印象的でした。

話は突然変わりますが、島根県は過疎化が進んでいます。特に、子どもの人口はどんどん減少してきています。それに伴い、小中学校は統廃合が進み、高校においても学級減という措置がとられています。そのような状況にもかかわらず、現在勤務している学校は入学定員が増えるという快挙を成し遂げました。隠岐の島前高校から始まり、今では島根県全体の施策となっている「しまね留学」の大きな成果と言えるでしょう。この奇跡的な事柄を、私は「令和の奇跡」と勝手に言っていますが、実は「奇跡」ではなく「必然の結果」と捉えています。

二つの事柄に共通していることは、実現させるという強い思いを持って取り組んできた結果として、周りからは奇跡と思われるほどの成果をあげたということです。ラグビーにおいては、他国にはない過酷な練習を行い、自分たちのプレーをすれば負けるはずがないという確信を持って大会に臨みました。偶然勝ったのではなく、勝つことが当たり前だと思えるだけの準備をしてきたことによる必然の結果だったのです。入学定員増も然りです。地域から高校が無くなってしまうという危機感から、地域と学校が連携し、10年近くの歳月をかけて本気で取り組んできた結果なのです。

世の中には、確かに神がかったような理屈では考えられない奇跡が起こることはたくさんあります。しかし、計画を立ててしっかり準備をし、強い思いで臨んだ結果は、「奇跡」ではなく「必然」と言うべきなのでしょう。

一つだけ音楽ネタを紹介します。ハイドンの交響曲第96番は、通称で「奇跡」と呼ばれています。奇跡的な曲という意味ではなく、初演時に天井からシャンデリアが落ちたにもかかわらず、誰もケガをしなかったことに由来するそうです。これはまさに「奇跡」と言えます。

私のように、何も努力をしていない者に対しては、必然の結果としての奇跡的なことは起こらないのでしょうか。それならば、本当の奇跡を起こしましょう。宝くじを買いに行きます！